

とりす（鳥巢）工法

ヤマセミ用土柱ブロック

NETIS

No. SK-150004-A

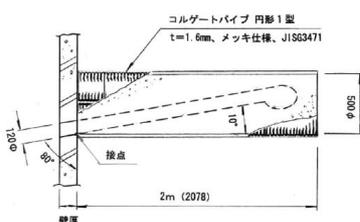
特許：第4060305 / 商標登録：第521472

特長

- とりす工法「ヤマセミ用土柱ブロック」は、営巣に必要な径φ500mmと長さ2mを有しています。そして体積が大きい事、又前後が解放され、左右に隙間を設けた外筒構造により、乾燥を防止し、雨水による過度な浸水も阻止することで巣作りに最適な状態を維持します。
- 植物の根や毛根は、私達の想像以上に土中深く進入します。土柱ブロックはコルゲートパイプの鋼製外筒構造により、外部から植物の根が入りにくいため、長期にわたり安定使用が出来ます。
- ふるいにかけて、石や木のごみ、また硬い土の塊等を除去した均一な土で製作した土柱ブロックのため、ヤマセミが容易に掘削して営巣する事が出来ます。
- 強固な鋼製コルゲートパイプ構造により、土砂が流出することが無く、テールアルメ等の補強土壁に使用することができます。
- 現地で営巣部の土を敷き均して転圧作業を行わなくて良いため、天候に左右されず、転圧不足等による致命的な施工ミスや、営巣のために大切な土質選定ミスが無くなり、営巣機能が格段に向上します。



ヤマセミ（山翡翠）：ブッポウソ目・カワセミ科に分類され、山地の溪流に生息するカワセミの仲間、大きさはハト程である。生息地は留鳥として九州以北に分布、繁殖しているが、個体数は多くない。繁殖形態／卵生。川や湖の岸辺の垂直な土手にくちばしを使って巣穴を掘り、巣穴の中に4～7の卵を産む。



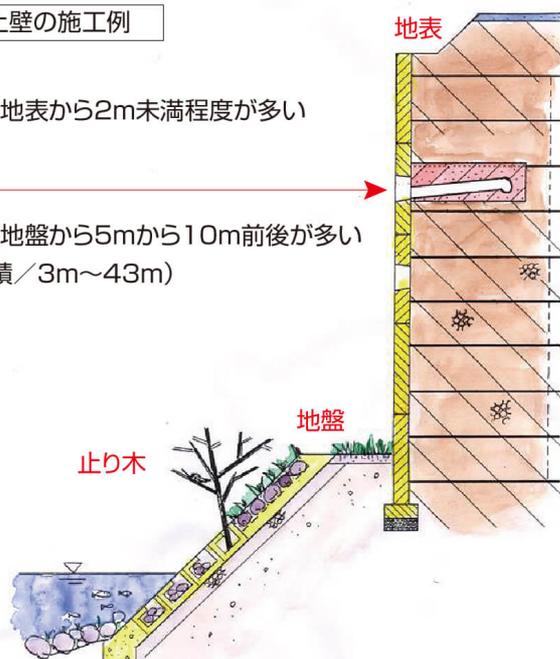
土柱ブロックの規格		
No.	項目	内訳
1	コンクリート擁壁の穴の径	120mm前後。10°の勾配をつける。
2	土柱ブロックの内径	φ500mm
3	土柱ブロックの長さ・重量	長さ2.0m・重量W≒720kg
4	土柱ブロックの土の種類	砂質土+赤土

補強土壁の施工例

営巣部は地表から2m未満程度が多い

営巣部

営巣部は地盤から5mから10m前後が多い
(営巣実績 / 3m～43m)



施工手順・設置概要



■土柱ブロックを施工するブロックに穴を開ける。



■吸出防止材を土柱ブロックに固定する。



■設置位置まで移動、ブロック背面と密着させる。



補強土壁使用例／新東名高速道路【NEXCO 中日本】愛知県

